【令和７年度　ケアハウス　モアヤング（一般）事業計画（実績報告）】

1　　利用定員 ４５名
2　　営業日 ..... 無休
3　　営業時間 ２４時間体制
4　　組織目標について

＜経営目標＞

1：年間入居契約率９８％の達成を目指す。

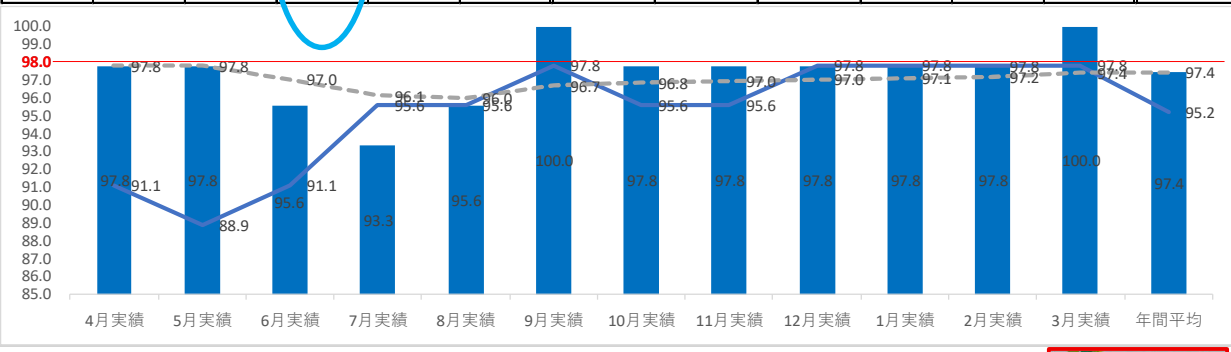
そのための具体的な取り組みとして、

① ケアハウスの一般型に入居するメリットの一つである将来的な特定介護サービスへの住み替えの安心感をアピールし、新規入居契約に繋げる。

・年間入居契約率　　９７.４％（目標達成率：９９.３）
・年間新規入居者数　　１０名（前年度実績：１２名）
・年間退居者数　　８名（前年度実績：　９名）

ケアハウス（一般）契約率

経営目標：９８％	4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	年間平均
前年(2024年）度実績	91.1	88.9	91.1	95.6	95.6	97.8	95.6	95.6	97.8	97.8	97.8	97.8	95.2
毎月1日付人数	44	44	43	42	43	45	44	44	44	44	44	45	43.8
今年度実績(%)	97.8	97.8	95.6	93.3	95.6	100.0	97.8	97.8	97.8	97.8	97.8	100.0	97.4
通算契約率(%)	97.8	97.8	97.0	96.1	96.0	96.7	96.8	97.0	97.0	97.1	97.2	97.4	97.4



②HP を閲覧した方からの資料請求→見学→申し込みも月 1-2 件あるため、HP 上のブログ更新頻度を上げケアハウスの情報発信に力を入れる。

・行事や日常など、毎月 3～5 件ブログを更新中。HP 閲覧者に法人の活動が停滞しているような印象を与えないようブログを放置しない事、毎月更新する事を目標に継続する（ 昨年上半期 18 件→本年上半期 24 件更新）。

・ 下半期 27 件更新（ 昨年下半期 22 件）。

見ていただけるよう 、ケアハウス入居のご案内に載っている QR コード にも「 BLOG 更新中」と 文言を追加。

2：総電力使用量に関し、対前年比において５％削減する。　⇒3.78％削減で未達

6階　電気温水器1・2および浴室機器電力　使用量													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
2021	10895	9817	11011	10213	9525	8467	7809	7601	8310	9714	11183	12000	
2022	13070	11399	12832	9638	8711	6983	6321	5990	6261	7581	8289	9919	
2023	10360	9522	9463	7613	7762	6400	5641	5231	5584	7416	7680	8796	
2024	9440	8448	8718	7643	7641	6094	5456	4756	4859	6202	6707	8063	
2025	8324	7891	7485	7692	6762	5476	4666	4588	4956	6263	6503	7803	
2026	8211	7408	7818										平均
前年同月比	-1.36%	-6.12%	4.45%	0.64%	-11.50%	-10.14%	-14.48%	-3.53%	2.00%	0.98%	-3.04%	-3.22%	-3.78%

①6 階浴室電気温水器、及び、浴室機器の電力量を削減するため、気温や季節に応じた適正な温度管理を行い、設定を見直す。

・特に 4 月の対前年比が目標から大きくかけ離れてしまったが、6 階電気温水器及び浴室機器電力量を昨年 4 月と比較すると大差ないため、原因追及と上記内容①の軌道修正を検討する。

・①1 月下旬より、男性入浴時間の終了時刻変更（19:00➡18:30 終了、30 分短縮）はあったものの目標達成には及ばず、平均マイナス 3.78％に終わった。

②館内の空調管理について、目標達成のため稼働箇所と稼働時間において昨年度よりも厳格に管理する。

・一部区間において、他部署と相談し OFF 時間を 30 分繰り上げるなど、稼働時間の見直しを実施。

・稼働箇所を気温、気候ごとに 3 パターンに分類し、一覧表を作成（①気温 1℃以下または降雪時、②気温 5℃以下、③気温 10℃以下）。職員にて翌日の気温を確認し、該当するパターンの一覧表を貼り出しておく事で、翌日の朝一の稼働箇所をコントロールした。

＜サービス目標＞

法人理念（「もっと若く」「ワクワクと」「笑顔で」）を意識した生活を入居者に提供する。

①アフターコロナ後、まだ外食行事を実施できていないため、今年度は外食行事を意識して計画を立てる。

・5 月にステーキ宮への外食ツアーを企画実施。5 名参加されその皆さんから「また行きたい」との声が聞かれたので今年度計 4 回で企画するも、その後ケアハウス内でコロナ感染者あり断念。終息待って実施タイミングを考えていた所インフルエンザ流行期に突入してしまい、企画実施時期については慎重に検討する。

・3 月、新しく大和田にできたかっぱ寿司への外食ツアーを企画。人気があり、申込者多数で定員を大きく上回ったため、2 回に分けて実施。②に通じる部分もあるが、外食ツアーに参加しようと入居者間で新規入居者を誘う声が聞かれたりと、入居者間の交流の活性化と良好な関係構築の一助となったのではないかと思われる。普段なら行事参加には消極的な入居者様も 2 名参加されていたので、外食ツアーが入居者にとって生活意欲の向上や交流の機会創出にも寄与する、有意義かつ必要な取り組みだと再認識した

②昨年度は入居者の入れ替わりが多く新入居者が増えたため、新入居者に交友関係を築く一助となるような行事を企画する。

・一般特定とも外部からの新規入居者多数あり、合同敬老会を開催。職員による出し物を中心に、入居者参加型で企画。職員の歌やダンスなどを見て、詩吟など昔習っていたものを披露したいと言われる入居者の声もあり、次回は入居者の出し物が中心となるような内容で企画する予定。

・男性入居者の比率が高まっているので男性受けする行事を検討したい。

・一般特定の合同新年会を開催。外部から和太鼓メンバーの方にお越しいただき披露していただいたのと、詩吟など昔習っていたものを披露したいという入居者様の声を反映し企画。詩吟、カラオケなど披露していただいた。

＜業務目標＞

有事でも業務を継続できる。

①緊急時・非常時、ご家族に快く協力していただけるよう、入居者本人と関係が薄い身元引受人（保証人）の方や、日頃やりとりがあまり発生していないご家族とも良好な関係性を構築する。

・自立の入居者様において、保証人様とやりとりする機会は少ないが、体調不良や生活における変化などメールにて報告を入れるよう心掛けた。下半期には、緊急連絡先の現況調査を検討中。

・上半期に検討していた緊急連絡先の現況調査について、R7 年度も入居者様の入れ替わりが多く新規入居者様が多いので、今後タイミングを改めて実施を検討する。

②BCP の中身で、個別にマニュアルが必要な項目について検討する。

・今年 3 月に館内水漏れにより数日 EV を稼働できない事があった。EV が使用出来ない場合の対応についてまとめ現在マニュアル作成中。

・前年度事業計画にて、災害時用物品の整理を行ったが、今回災害時用救急バッグの中身について、点検と見直しを行った。

・下半期では、防犯についてマニュアルを見直し安全管理体制と対策を強化、物品等も購入し訓練を実施する予定。

・防犯に関する物品を購入。テラス出入口、職員玄関天井に防犯カメラ（ダミー）を設置。キャッチ付さすまたや、防犯スプレー、防犯専用ライトなども購入。実際に使用しての訓練は未実施のため、今後マニュアルを整理し、使用方法についてなど研修を実施したい。

＜職員教育目標＞

個々の対応力の向上を図る。

①PDCA サイクルの重要性について学び直し、基礎知識を身につけ業務に活かす。

・動画視聴にて基本について学んだ。

PDCA サイクルとは【改善活動の基礎 カイゼンの基本編：第7章】

②外部研修に参加し、研修内容を部署内で共有する。

・上半期は外部研修 2 件（中堅者向け接遇研修、メンタルヘルス研修ラインケア編）受講、研修時配布された資料を他部署とも共有。下半期は 3 件の受講を予定。

・AED 講習に参加。宿直者にも参加してもらい、参加できなかった職員には、公益財団法人日本 AED 財団の無料オンライントレード動画を視聴してもらった。気軽にスマホで見返せるように、YouTube 等動画サイトから分かりやすい動画を選定して、その URL を QR コード化し一覧にまとめ、ラミネートしたものを宿直者に配布。事務所にも1部 AED とあわせて設置した。条件や役割を設定し、夜間緊急時対応のシミュレーション研修も実施した。

令和７年度　ケアハウス（特定）モアヤング 事業計画 実績報告

１　利用定員　　１５名

２　営業日　　無休

３　営業時間　　２４時間体制

４　組織目標について

＜経営目標＞

・年間入居契約率 98%、年間稼働率 95%の達成を目指す。

その為の具体的な取り組み

① ケアハウス一般型やモアヤング介護相談所等と情報共有と業務連携を図り、稼働率ＵＰに努める。

② 重度化防止に取り組み、長くケアハウス特定介護サービスで生活が出来るように支援する。

・年間入居契約率　９８.９％（目標達成率：１００.９％）

・年間稼働率　　８６.５％（目標達成率：　９１.０％）

・新規入居者数８名（内、ケアハウス一般型からの住み替え２名、モアヤング介護相談所からの紹介：２名）

・退居者数１０名（内、特養への転居者は５名）

・新入居予定者と退居予定者の入退居スケージュールの管理を徹底することで、空床期間の短縮化を図り、年間稼働率の向上に努めた。

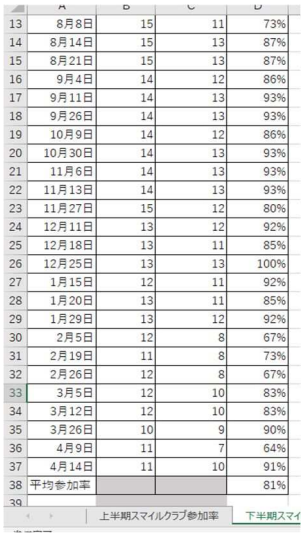
＜サービス目標＞

「もっと若く・ワクワクと笑顔で」の法人理念を意識し、質の高い介護の提供を目指す

① データに基づいて体調の変化を早期に発見し、チームでアプローチをしていく。

② 入居者の気持ちに寄り添い、ＱＯＬを向上させるイベント・行事を企画する。

③ ＡＤＬの低下を防ぐ活動を習慣化し、参加率を上げる。



	A	B	C	D
13	8月8日	15	11	73%
14	8月14日	15	13	87%
15	8月21日	15	13	87%
16	9月4日	14	12	86%
17	9月11日	14	13	93%
18	9月26日	14	13	93%
19	10月9日	14	12	86%
20	10月30日	14	13	93%
21	11月6日	14	13	93%
22	11月13日	14	13	93%
23	11月27日	15	12	80%
24	12月11日	13	12	92%
25	12月18日	13	11	85%
26	12月25日	13	13	100%
27	1月15日	12	11	92%
28	1月20日	13	11	85%
29	1月29日	13	12	92%
30	2月5日	12	8	67%
31	2月19日	11	8	73%
32	2月26日	12	8	67%
33	3月5日	12	10	83%
34	3月12日	12	10	83%
35	3月26日	10	9	90%
36	4月9日	11	7	64%
37	4月14日	11	10	91%
38	平均参加率			81%
39				

上半期スマイルクラブ参加率　下半期スマイ

出来るだけ長く住み続けたいというご家族様の思いに寄り添い、訪問診療とも連携をとりながら、重度化を支援しました。何度もご家族様と会話を交わす中で、ケアの方針が変わっていっても、柔軟に対応し、職員の中にも気付きがうまれ、チームでアプローチする事が出来ました。

質の高い介護の提供の為に、年間 12 回の行事と 6 回の食事イベントを行いました。日常会話の中で、入居者ごとに違う嗜好を聞いて、本人に寄り添えるような行事の内容を計画・実行しました。

また、週に１回の体操教室を元に、職員で実施する体操にも取り組んでおり、81％の平均参加で ADL の低下を予防しました。

＜業務目標＞

業務の標準化

① 各職種の業務の見直しを行い、適切に更新していく。

② 多職種でのチームワークを意識し、見識にずれの無い情報の伝達を行う。５ＷＩＨを意識した情報の発信を行い、伝達ミスをなくす

③　 リスクマネジメント力を高め、安全な環境を整える。

１０分会議を毎日行い、情報共有に努めると共に、看護職と介護職が協力して、情報を集約し、プランについてケアマネージャと一緒に検討する流れが出来ています。毎日の会議での課題解決事項は、文章化し、デスクネッツを活用する事を取り入れました。情報の発信を今まで行ったことがなかった職員も、自分から情報を発信し共有する機会が作れました。

また、業務の中での無駄を洗い出し、作業部分での時間が短縮できるように、見直しをしました。業務の漏れがないように、入退去時の業務内容を連携出来るワークシートを作成し、ケアハウスとしてのチーム力を高めました。

会議の報告書などの作成について、音声入力で自動作成する機会に触れ、効率的に作成できる点で、業務の効率化をさらに進められると感じました。

＜職員教育目標＞

伝達研修を行い、教え合いの中でのスキルアップを目指す

① 新人研修の見直しを行い、計画を立てて確実に習得する

② リーダーを中心に委員会活動の中で見識を深め、職員全体でのスキルアップを図る

特定技能実習生をケアハウスで初めて受け入れた事もあり、新人研修の見直しを行い、どの職員でも教えることが出来るマニュアルを作成しました。どこまで業務を覚えたかが不透明にならないように、1 週間に 1 度、チームリーダーと新人職員で話をし、進捗状況の把握をしました。各委員会の中では見識を深め、不適切な介護になっていないかを振り返り、より良い支援に繋げられるように、介護職がどのような視点で観察していくかを看護師から学ぶ勉強会を実施しました。

緊急対応では、今回こもれびで AED の講習会があり、7 名参加し、緊急時に対応できるように学びました。

令和７年度　デイサービスセンター　モアヤング　事業計画　実績報告

１　利用定員　　２０名（月曜日～金曜日）

２　営業日　　毎週、月曜日～金曜日（１２／３１～１／３まで定休日）

３　営業時間　　午前８時３０分～午後５時３０分

４　組織目標について

＜経営目標＞

年間稼働率８５％の達成を目指す。

取り組み内容

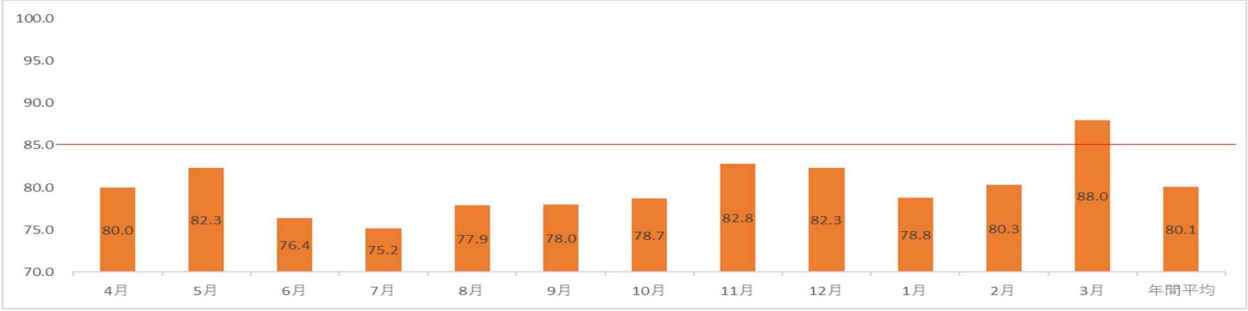
① 全ての曜日の利用登録者数を、２２名以上にする。

② 毎月のサービス提供報告書等を居宅介護支援事業所と地域包括支援センターに持参し積極的に利用者の情報提供を行う事で、信頼関係を構築する。その際、曜日別空き状況一覧表を提供し、新規利用者の紹介に繋げる。

③ 将来の利用頻度の増加や利用時間の拡大を見込んで、要支援利用者や半日のみのサービス希望利用者も積極的に受け入れる。

【令和７年度　年間平均稼働率】　　８０.１％（目標達成度：９４.２％）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
80.0	82.3	76.4	75.2	77.9	78.0	78.7	82.8	82.3	78.8	80.3	88.0	80.1



【営業活動の現状】

① 毎月、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターの担当ケアマネジャーに、サービス利用実績、サービス提供報告書、曜日別空き情報、通所介護計画書等を直接持参し、情報共有と関係構築を図った。その結果、令和８年３月末時点で月曜日と火曜日は、利用登録者数２２名を達成。

② 利用者の体調の変化だけでなく、生活環境の変化など気になることがあった際は、必ず担当ケアマネジャーやご家族に報連相をする事で信頼関係の構築に努めた。
③ 利用者の状態やニーズに応じて、利用者にとって最適な機能訓練サービスや入浴サービス等のサービス内容、利用頻度、利用時間の提案や、利用者の現状に応じた介護度への区分変更申請の提案により、適正なサービス提供と収益確保の両立に努めた。

＜サービス目標＞

サービス品質の向上による顧客満足度（CS）UP。

取り組み内容

① 個別ケアによるご利用者の活動充実
・職員がご利用者１人１人とコミュニケーションを図る事で、笑顔を増やし、幸せを感じて頂く。
・ご利用者の活動性を高め、生きがいを感じて頂く。
・定期的にヒアリングを実施する事で、最大限のサービス向上を実現する。

② デイサービスセンターのアピールポイントの開拓。
・当事業所を利用することでのメリットを発掘・創造し、他事業所との差別化を図る。

【サービスの質の現状】

① 令和６年４月より、入浴介助加算Ⅰから入浴介助加算Ⅱの算定に変更し、ご自宅の入浴環境を定期的に評価した上で、個別性を重視した入浴介助サービスを提供している。
② ご利用者との日々のコミュニケーションやヒアリングを通じて、心身の状態や思いを的確に把握し、ご利用者の長所を活かした個別活動の提供に繋げている。
③ ご利用者と職員との共同作業による季節ごとの作品作りを通じて、四季の変化を感じてもらいながら、手や指先のリハビリや、ご家族との日常会話の充実に繋げている。

＜業務目標＞

新規利用者獲得と稼働率 UP を実行するための事業所体制の構築。

取り組み内容

① ５S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の徹底による管理された事業所環境の創出。

・日々の職員、ご利用者の変化に対応できる体制の構築。

② 業務改善による３Ｍ（無理・無駄・ムラ）の排除。

・既存業務の中で優先順位が低いものは、一度やめてみて、どうしても支障があれば再検討する。

③ 業務改善により、空いた時間をクリエイティブな業務に充てる。

・日常業務において、事業所の将来の発展のためのクリエイティブな業務を行う。

【業務改善の現状】

① 各職員が、各々のサービス提供場面において、各ご利用者の状況を適切に把握し記録することで、全職員の確実な情報共有を実施している。

② 職員のインカム等ＩＣＴ機器の活用レベルを引き上げることで、情報共有の更なる効率化を図っている。

＜職員教育目標＞

職員の能力と主体性向上のための教育環境作り。自律的なリーダーの創出。

取り組み内容

① 「ご利用者にとっての頼れる事業所及び職員」として常にサービス提供できるよう意識向上にむけた取り組み。

・ご利用者視点にたったサービス提供の意識付けを徹底。

② 資格・経験・知識を活かした職員の長所を活用していく。

・各職員の個性を理解・尊重し、互いに補い合う。

③ 外部・法人内の研修に積極的に各職員が参加する。

・外部研修や勉強会に参加し、参加者が他職員に伝達することでさらに学びを深める。

【職員教育の現状】

① 職員全員が、きめ細やかな気配りと、おもてなしの接遇の実践。

② 日常業務において、各職員との対話や観察を通じて、職員個々の能力や適正を十分把握し、業務レベルの向上と能力開発に繋げ、それぞれの職種が専門性を発揮し、多職種・協働できる事業所になる。

③ 正職員を中心に外部研修に参加し、研修等で得た情報を定例会議や委員会、デスクネッツ等により、他の職員へ効率的に伝達・共有し、職員の資質向上に繋げている。

④ デジタル人材の育成として、職員全員がＩＣＴやＡＩ等のテクノロジーに関するリテラシーやスキルを高めることで、業務の効率化や生産性の向上を段階的に推進している。

令和７年度　モアヤング介護相談所　事業計画　実績報告

１　利用定員　　４０名（常勤介護支援専門員一人あたり）

２　営業日　　毎週、月曜日～金曜日

３　営業時間　　午前８時３０分～午後５時３０分
（営業日、営業時間外の緊急時は２４時間
電話連絡・相談対応可能）

４　組織目標について

＜経営目標＞

年間平均給付管理件数７６件を目指す。

その為の具体的な取り組みとして

１．　地域包括支援センターへの定期的な訪問活動や、地域包括支援センター主催の研修会やイベント等に積極的に参加し、地域包括支援センター職員と顔を合わせる機会を増やすことで関係性を深め、新規利用者の紹介に繋げる。

２．　担当利用者の配偶者や親族等の関係者の中で、介護が必要な状態になっている場合、積極的に介護サービスと介護認定の代行申請を提案し、担当利用者を含む世帯全体の支援に繋げる。

３．　毎月の利用者宅への訪問時のモニタリングにおいて、心身の状態変化やご家族の介護負担等の実態を把握し、適時適切に、区分変更申請を行う。

・年間平均給付管理数　６９.１件（目標達成率：９０.９％）
・新規利用者数　　２３人
・利用終了者数　　１５人

・今期は、利用者の高齢化と重度化に伴う特養やケアハウス特定介護サービスへの移行による利用終了者数の増加により、目標達成に至らなかった。
・令和７年度３月に単月での給付管理件数が目標の７６件に到達し、来期は安定的な給付管理件数を維持できる見込み。

＜サービス目標＞

住み慣れた自宅での生活を１日でも長くできるように支援する。

その為の具体的な取り組みとして

１．　医療的視点と食事的視点からの提案と、身体機能が維持できるよう、訪問看護やリハビリ（訪問、通所）サービスの提案を積極的に行う。

２．　専門職、多職種と協働して、多様な福祉用具等の活用による住環境の整備と効果的な支援方法を提案する。

３．　リハビリや医療の研修等に積極的に参加することで新しい情報を収集し、実際のケアマネジメントサービスに活かす。

・今期から担当のある利用者の実例として、利用契約時点では要介護３、自立歩行不可の状態であったが、半年間のデイサービスでのマシーンによるリハビリや歩行訓練を継続的に行った結果、要介護２となり単独でタクシーを利用し車椅子を自走して外出するまでに回復した。さらに、次の本人の目標として、新幹線に乗って大阪に行きたいと、さらなる意欲向上に繋がった。

＜業務目標＞

高齢者虐待防止体制及び、業務継続計画（BCP）の実行性を高めるための定期的、継続的な見直しの実施。

その為の具体的な取り組みとして

１．　高齢者虐待防止に関する研修や業務継続計画についての研修および訓練を定期的に行い、適宜見直しを行う。

２．　自力避難不可能な重度利用者、独居利用者、老老介護利用者、災害リスクの高いエリアに住む利用者等、優先的に安否確認が必要な利用者情報を可視化し、担当ケアマネジャー間で情報を共有することで、自分の担当利用者以外のリスク情報を把握する体制を構築し、事業所としての緊急時の対応力を高める。

３．　家族の介護負担アセスメントシートを活用することで、家族介護者に過度な心身の負担が発生してないかを定期的に点検し、家族介護者による被介護者への虐待の未然防止に繋げる。

・高齢者虐待防止体制については、地域包括支援センター主催の研修会に参加。
・業務継続計画（BCP）については、緊急時の安否確認リストの見直しを実施。

様式9：災害時利用者一覧表（安否確認優先順位）　出典：静岡県介護支援専門員協会。URLは、下記。

発災時に、優先的に安否確認の必要な利用者へ早期の対応ができるように、事業所内で事前に把握しておきましょう。　https://shizuoka-caremane.com/page.php?pid=GR2ZA4P39S

事業所名：　令和７年　月　日

No	優先順位※			包括	[redacted]		移動手段、かかりつけ医		特記	担当ケアマネ	安否確認できた日
	介護度	世帯	環境				移動手段	医療機関			
1	要介護１	独居	戸建て	大東			歩行器	奥村病院	腰痛、長距離歩行困難	松島	
2	要介護１	独居	戸建て	大東			独歩	済生会病院	認知症、記憶力、理解力低下あり、コミュニケーション良好	松島	
3	要介護１	独居	戸建て	中央北			独歩	柏原脳神経クリニック	認知症、記憶力低下、コミュニケーション良好	黒川	
4	要介護２	独居	戸建て	あずま			杖歩行	嶋田病院	近所の橋本氏に状況確認 TEL　090-2129-2447　生活保護	黒川	
5	要介護１	高齢世帯	戸建て	あずま			独歩	済生会病院	肺腺癌にて抗がん剤治療中	松島	
6	（要介護１）	高齢世帯	戸建て	あずま			車椅子	福井県立病院	腎機能低下により、透析検討中	松島	
7	要介護２	高齢世帯	戸建て	あずま			独歩	嶋田病院	両眼性慢性軸性視神経炎にて視力障碍あり。	松島	
8	要介護２	高齢世帯	戸建て	あずま			車椅子	県立病院	糖尿病、インスリン自己注射	松島	
9	要介護２	高齢世帯	マンション2階	中央北			車椅子	多賀循環器内科	マンション２階（エレベータあるが、外玄関に階段あり。）自宅内這って移動。	黒川	
10	要支援１	高齢世帯	マンション2階2階	中央北			杖、歩行器	多賀循環器内科	マンション２階	黒川	
11	要介護３	高齢世帯	戸建て	あずま			車椅子	高橋クリニック	脳梗塞後遺症（左片麻痺）	松島	
12	要支援２	高齢世帯	戸建て	あずま			独歩	高橋クリニック	うつ傾向あり	松島	
13	要介護２	高齢世帯	戸建て	あずま			杖	済生会病院	倦怠感の訴え多い	松島	
14	要支援２	高齢世帯	戸建て	あずま			杖	斉木内科循環器	記憶力低下あり	松島	
15	要支援１	高齢世帯	戸建て	あずま			独歩	定期受診なし	記憶力低下あるも、運転している	黒川	
16	要介護１	高齢世帯	戸建て	あずま			杖、手引き	吉村医院	狭心症	黒川	
17	要介護２	同居世帯	戸建て	あたご			車椅子	定期受診なし	統合失調症の次女（60代）と二人暮らし	黒川	
18											
19											
20											

※優先順位の「医療・介護」、「環境」、「避難」は、優先順位を決める際の基準項目であり、順番に意味はない。避難支援の欄には、独居→(独)　高齢世帯→(高)　日中独居→(日)と記載する。

＜職員教育目標＞

ケアマネジャー自身の見識を深め、広い視野を持って様々な困難事例への対応力を高める。

その為の具体的な取り組みとして、

１．　在宅サービス担当ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）、居住系サービス担当ケアマネジャー（特定介護サービス）、施設サービス担当ケアマネジャー（特養）が、それぞれの困難事例や課題解決事例を持ち寄り、意見交換や事例検討を行うケアマネジャー勉強会の定期的な開催。

２．　外部研修の場として事例検討会に定期的に参加し、他職種の知見や考え方を学び、ケアマネジメントサービスの質の向上に繋げる。

・ケアマネジャー勉強会　１回実施（７月）
・外部研修
　１）　令和７年度東海北陸ブロック地域包括支援センター・在宅介護支援センター研究協議会主催研修参加
　２）　介護予防ケアマネジメント研修参加
　３）　地域ケア推進会議（あずま包括支援センター・大東包括支援センター共催）参加

令和７年度　モアヤング こもれびホーム　事業計画　実績報告

１　利用定員　　８０名

２　営業日　　無休

３　営業時間　　２４時間体制

４　組織目標、ビジョンについて

経営目標

① 年間入居率９６％を目指します。
又、居宅介護支援事業所・デイサービス事業所・特定施設入居者介護事業所・ケアハウスの各事業所と連携を密にし、稼動 UP に努めます。
退所が多くなると想定される夏季、冬季における空床発生時のスムーズな入所に向けた取り組みを行っていきます。
令和７年度は入所３０名、退所３２名と、前年度と比較して入退所の動きが約 2 倍に増加した。特に退所については、入所 3 年以内の退所が 18 名を占めており、長期利用に結びついていない状況が見受けられた。また、入居者の入院件数自体は前年度より減少しているものの、個別に見ると長期入院となるケースが目立っていた。
こうした状況を踏まえ、入退所対応を行いつつ、入居を前提としたショートステイの活用を積極的に進めた。しかしながら、入居契約終了後に本入所へ結びつかなかったケースも 3 件発生し、次の入居者が決まるまでの空所期間が生じた。
これらの要因が重なり、結果として稼働率に影響を及ぼしたものと考えられる。

① 介護福祉士取得率向上に努める。
② OJT ・OffJT による年間教育を行う。
③ 全ての無資格の介護職員に認知症介護基礎研修の受講を行う。
介護福祉士試験　　１名受験、合格者０名。
喀痰吸引資格取得者　３名

ケアにおける方針

ご利用者一人ひとりの気持ちを大切に思いやりのある介護を目指します。ご利用者の今までの生活をよく理解し、その人らしい生活が送れるようユニットケアも取り入れつつ心身機能の維持・向上に努めていきます。また、安心安全なサービス提供のため、ご利用者はもちろんご家族の気配りと心配りを忘れず、きめ細やかな対応をしていきます。
科学的に効果が裏付けられた質の高いサービスの提供を推進し科学的介護に取り組んでいきます。利用者のケアの質を担保しつつ、介護職員の負担軽減のための生産性向上の取り組みを行い、近未来の介護職員の在り方を模索していきます。
看取り介護にあたり、ご利用者が医師の判断のもと、回復の見込みがないと判断された時に、ご利用者またはご家族が自施設において看取り介護を希望された際には、看取り介護の実施に努めていきます。

特色と方向性について

こもれびホーム職員として「もっと若く」「ワクワクと」「笑顔で」での理念のもと、与える介護ではなく、自由な選択枠によって求められた介護の実現を目指していきます。ご利用者本人の思いと笑顔を大切にし、少しでも望ましい生活が出来るよう支援していきます。
積極的に ICT・IOT を取り入れ活用し職員の業務負担軽減を今以上に目指していきます。

施設内外の行事および外出機会を図り、利用者及び家族からの満足度向上につながった。あわせてラジオ体操や口腔体操を日課として実施し、利用者の体力維持向上に努めた。

具体的な取組み

① 協力医療機関（済生会病院）の認定看護師と連携を取りながら、感染対策強化と訓練を行っていきます。年間計画に感染勉強会や施設ラウンドを予定し職員の教育体制を強化していきます。

② 看取り介護を 2020 年 4 月からはじめ、40 事例以上の利用者様を看取りました。その経験を踏まえ、更に『その人らしい最期』を今一度考え、ご家族を巻き込み、共に援助していく気持ちで関わっていけるように、よりよい看取り介護を目指していきます。利用者様、ご家族様

の【できない】を可能な限り【できる】ようにしていける援助を心がけます。
その為には特定技能実習生も夜勤に入ることもあり、緊急時の対応はもちろん看取り介護に携わる者の体制および記録の整備・職種の役割・医療、看護の体制・施設内教育として看取りの勉強会を実施していきます。基礎・実践・応用と段階的に看取り介護の実施に努めていきます。
看取り介護を 2020 年４月から行い、57 事例以上の利用者様を看取りました。これらの実践を通じて、本人およびご家族の意向に寄り添ったケアの提供に努めている。
また、緊急時対応訓練を毎月継続的に実施し、対応体制の強化を図った。さらに参加型の勉強会の実施することで、職員全体の理解促進と技能向上に寄与しており、特に外国人職員においても理解が深まり、現場での実践力向上につながっている。
今後もこれらの取り組みを継続し、より質の高い看取りケアの提供と人材育成に努めていく。

③ 科学的介護情報システム（LIEF）を活用し（ADL・栄養・口腔・嚥下・認知症）のデータを基に PDCA サイクルを実施しケアに対する質の向上の取り組みをしていきます。
LIFERENS もアップデートされていく中で、活用方法が幅広くなってきたため勉強会を通してよく理解し、生産性向上にも繋げていきます。

入居者全員の情報を半年ごとに精査し、フィードバックを踏まえた支援内容の見直しを実施。利用者１人ひとりに即した質の高いケアの提供に繋げている。また、今年度はパナソニック担当者による指導のもと、UL を軸としたライフレンズ及びアームスの操作や設定方法を再確認し、適切な運用体制の強化を図った。

④ 一年を通して、職員の面談を継続して実施する。
毎月５名を目標に、面談シートを基に面談方法も例年とは違った方法で実施していく。
仕事に対しての意欲や理解、ストレスケア等を行い、人材育成に努めていきます。また、職員のスキルアップを目的にフォローアップ研修（動画）を十分に用いながらご利用者様の満足に繋げていきます

直接面談の対象者 5 名に対し面談実施。
面談を通じ、業務上の課題や施設運営に関する改善提案を的確に把握をすることができた。また、面談方法をかえることにより以前と比べ、より効率的かつ実効性の高い意見抽出が可能となり、フォローアップ研修の積極的な活用と併せ、職員の能力向上および組織全体の質の向上に努めることができた。

⑤ 全職員の仕事・役割を明確にし、常に資質向上に努め、思いやりとチームワークを持って業務に取り組みます。ケアプランを基に、担当ご利用者のケアを充実し努めていきます。
ユニットケアにも力を注ぎ、ご利用者の日常生活でやりたいことを少しでも実現できるよう努めていきます。

各職員が担当ご利用者を持ち、個々の「やりたいこと」や「生きがい」を丁寧に把握することで、その方らしい生活スタイルの確立と実現へ努めた。
今後も継続的に取り組み、より質の高い支援の提供に繋げていきたい。

令和７年度　ふくい森の子学園　実績報告

1　利用定員　　入所　１５名　　通所　５名

2　営 業 日　　無休

3　営業時間　　２４時間体制

4　組織目標について

（１）心理治療の確立

① 専門的で適切な児童支援方法の確立

子どもの権利を尊重し、最善の利益を最も重視し、本施設の特徴である自然を活用し、アットホームな雰囲気、また、福井大学医学部付属病院等の専門機関のバックアップ機能を活用、連携し、専門的で適切な児童支援の方法を確立していく。

● 医師との連携方法確立

・全医師とのオンライン会議　１回/月

・県立病院医師による研修・スーパーバイズ　２回/月

② 開設時の職員の人材育成

本施設は、令和７年４月に開所する新たな児童心理治療施設であり、開設時の運営に当たり、本施設内での職員研修はもとより、県内外の児童福祉施設等での実習も取り入れ、本施設の人材育成計画を策定し、人材育成を最重点課題として取組む。

● 人材育成計画の作成と計画的な研修の実施

・人材育成計画の作成

・園内研修の実施。園外研修への積極的な参加（全職員１回は受講）

・児童養護施設での実習を実施（全職員）

③ 入所児童の計画的な受入

措置機関の児童相談所の協力を得て、入所児童の受入等を協議する連絡会を開催し、本施設の状況等について逐次情報を提供し、また、指導を仰ぎ入所児童が安心して生活できるよう、計画的な受入れを行う。

● 令和７年度末利用児童数　措置児童６名　委託一時保護１名

・児童相談所との連絡会　１回/月

・入所前協議　５回実施

（２）職員の専門性の確保

① スーパーバイズ研修

入通所するすべての子どもの自立支援計画の作成において、精神科医師等のスーパーバイズを受け作成する。また、自立支援計画に基づき、精神科医師も出席するケーススーパーバイズを目的とした支援会議を開催し、専門的なアセスメントに基づき、職員の気づきを促すアドバイスを行い、日々の治療や支援に当たる。

● スーパーバイズ体制の確立

・全医師によるケーススーパービジョン　　1回/月
・県立病院医師来所によるスーパーバイズ　1回/月
・福井大学医学部附属病院心理士によるスーパーバイズ 1回/月

② 施設内研修の実施

職員を全国心理治療施設協議会やその他の専門的な研修に積極的に参加し、個々の職員の専門性の向上を図るとともに、これらの研修に参加した職員を中心として毎回テーマを決めた施設内研修を実施し、施設全体の専門性の向上を図っていく。

● 施設内研修の実施

・個別ケース会議の実施　1事例　1回/3か月
・園内研修の実施（権利擁護・虐待防止・感染症・薬剤・救急救命）

（3）積極的な地域貢献

① 地域活動への積極的参加

福井県内の市町が設置する要保護児童対策協議会への積極的に参加していく。児童虐待の未然防止・早期発見および早期対応を目指すべく、本施設、本法人の持つ専門性を協議会に反映させていく。

また、地域主催のイベントや子ども会行事への積極的な参加や本施設内に設置する「地域交流スペース」の開放や、災害時の福祉避難所の役割等、地域に開かれた施設運営に努める。

● 施設見学・説明会を実施

学校・警察関係機関5ケ所　　42名
医療・福祉関係機関名12か所　　74 名

② 分教室や本校との連携

本施設には福井市立「杉坂小中学校」の分教室が設置され、分教室の学校運営の積極的なバックアップや連携、また「杉坂小中学校」との連携強化も図っていく。

● 杉坂小中学校との連携

杉坂小中学校における教育に関する会議　3回/年
1回/月　運営会議実施　（校長・主任　園長　副園長）